

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470102478		
法人名	社会福祉法人 碓山会		
事業所名	「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大分市大字津守字長田2547番地の6		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	平成24年1月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業者に委託した食事ではなく、栄養士が献立をたて職員による手作り食事をいつも美味しく、バランスよく食事する事により健康管理につながっている。利用者の常に身だしなみ・清潔保持・環境整備・美化に努めている。併設事業所等あり、車で外出しなくてもいつでも交流する事ができる。明るく開放的で笑い声がたえない。「こころ」を大切にしたい支援をモットーに励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は田畑が広がり民家は少ないが、地域の交流に積極的に取り組んでいる。災害時なども地域の方達を受け入れられるようにしている。職員同士の振り返り時間を持ち、常に利用者中心のケアを考え、介護計画書も詳細にケア内容を記載し共有している。家族の面会も多く協力的であり、行事や外出などで家族同士の交流も図っている。研修生や実習生の受け入れの際の注意事項なども職員室に提示し、職員の意識づけになっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	地域に根ざし開かれたグループをめざし、理念を共有し、災害時等地区の方々役に役立つようシュミレーションをしている。水、電気等	月一回の会議で理念の確認を行い、共有しケアの実践に繋げている。日々の申し送りや振り返りの時間においても、理念を念頭に置き、話し合いを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に参加、ボランティア(清掃)を受け入れている。職員、利用者共に地区出身者が多くなじみの方々との交流がある。	老人会や地区の行事に積極的に参加し、交流を深めている。中学生のボランティアが年2回清掃活動に来る事により、利用者共同作業をし、交流の場になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中にはキャラバンメイトの登録をし、仲間作りをしている。又「おたより」を発行し地域に向けて発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市・抱括・地域の代表・家族の代表・施設代表と一緒に現況報告。改善点等約1時間半にわたり意見交換を行い向上に役立っている。	2ヶ月に一回開催しており、議題に対する意見交換も活発である。以前にも玄関とホールの仕切についての提案があり、カーテンをかけるなど実践につなげている。災害対策などにも地域の協力体制が築けている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の出席、新聞の送付等で信頼関係を築き協力を得られるように努めている。	困難事例を初め、様々な相談ができる関係になっている。運営推進会議なども利用し、気軽に報告・相談をし、調整している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の会議等により確認をくり返ししながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議などを利用し、意識付けを行っている。居室の工夫をしたり、玄関は自由に出入りできる様にして、見守りを重視し、安全面に配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し職員間の相互確認で虐待を防止している。		

事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している利用者もおり制度について勉強会を開き理解を深め支援につなげている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ(2回くらい)十分な説明を行い理解・納得していただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置又は家族会等に家族のみの話し合いをしていただくようにしている。	年一回、家族会を開催している。行事や外出に家族の参加も多く、家族同士の意見交換を通じて要望があれば実践している。面会時にも気軽に話せる雰囲気心掛け、提案などがあれば、申し送りや朝礼で、職員が共有できる様に取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議や毎日の朝礼、振り返りの場などで職員同志意見を言う場面はあるが、定期的の面談などではなく意見が反映されているとはいえない。	申し送りや振り返りの時間に話し合いをし、共有を図っている。課題が発生した場合、職員の意見を検討し、反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援は行われ、やりがいや向上につながっているが、職員同志の人間関係の把握はできておらず、今後は面談などの対応が必要である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、研修に職員の段階に応じて参加し報告する機会をもうけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム専門委員会に加入しており、研修や交換会に参加し、質の向上をはかる取り組みをしている。		

事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>時間をかけて本人のしたいことや、してほしい事を聞き出すようにしている。職員会議で情報を交換できるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、事業所として対応できるか十分な話し合いを持ち、信頼関係が築けるようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時本人やご家族の思い、状況を確認し事業所として無理な場合は、他サービスの紹介等も含め真摯に対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者本位という考えに基づき、各々が役割を持ちながら生活できるように心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会時には、ご本人との時間を大切に過ごしていただくように、個々の対応をしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ふるさと訪問(年に一度)、地域の方が面会に来館してもらえるように病院・公民館・学校等に新聞を掲示している。</p>	<p>友人や知人の面会も多く、希望があれば食事を一緒にしたりと、気軽に来られる様にしている。本人の希望する場所や、自宅周辺に行ったり、家族の協力も得て自宅への帰省なども支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の気分に合わせ、独りの時間を大切にしつつ、席替え等をとりいれ利用者同士が話し合える関係づくりに努めている。</p>		

事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行ったり、新聞を送付、年賀状・暑中見舞い等のハガキで関係がとぎれないようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取れる方には把握に努め、困難な方に対してはサービス担当会議で十分検討するようにしている。	コミュニケーションを重視し、得られた情報を朝礼や申し送り、振り返りの時間を利用し、共有に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ご本人からの情報又は面会、来館の方よりの情報からなるべく早い時期に、情報収集するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後一週間は24時間観察ノートを作成し、ご本人の過ごし方を把握できるようにしている。毎日バイタルを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議により問題点の把握に努め、早い段階での改善にむけて取り組んでいる。	ケアプラン実施表があり、日々のモニタリングをし、カンファレンスでの話し合いや計画作成に役立っている。計画書にもケア内容を詳細に記載し、ケアの実践をしている。家族へは事前に要望などを聞き、反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報に詳しく状態を記入し、朝・夕の申し送りにて情報を共有し、実践や見直しに活かすようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、衣類の買い物等、ご本人、家族と相談しながら、できるだけ対応するように取り組んでいる。		

事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域で行っている祭り、芸能文化祭への参加等交流を図っている。又、地域の広報誌を通して情報を得ている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の定期受診や健康診断、急変時の受診は本人及び家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>週一回往診があり相談などを行っている。以前より受診していたかかりつけ医にも、家族の協力を得て継続したり、無理な場合は事業所で受診支援をしている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>併設された事業所の看護師、医師により病・傷の早期発見、治療を受けられるよう体制ができています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>グループでの対応が可能であれば、できるだけ早く退院できるようお見舞いに行ったり担当医・ご家族との連絡相談に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期のあり方については、ご家族と話し合いを続け、事業所として対応できる方針説明を行ない、関係機関への紹介連絡に努めている。</p>	<p>看取りは行っていないが、入居時に事業所の説明を十分に行い、家族も納得している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命の研修や勉強会を開催すると共に、緊急マニュアルを設置し実践につながるようになっている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施、地域推進会議を通じ、地域住民との協力体制が築けている。</p>	<p>年二回、自主避難訓練を行っており、年一回程度、消防署の指導も受けている。災害時には、水や電気の提供が可能であることから、地域住民の避難場所としてのスペースも用意している。</p>	

事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの心理、情緒や場面に配慮したさりげない声かけを心がけている。	不適切な言葉かけや対応があった場合には、その場で助言・指導をしている。職員同士でも注意し合う様に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表出のある時は、その方のペースを守るよう心掛け、何をしたいのかご本人の希望を聞くように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活できるよう希望をたずね、選択できるような場面を作るようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人の意思によって決定できるよう支援。マニキュア等ぬりたい方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、ご飯・小鉢・お茶・おしぼり等それぞれ役割を持ち、できる事をしていただく。咀嚼の悪い方は、ご自分で食べやすいサイズにカットしていただいている。	栄養面を重視し、併設施設の栄養士に相談・助言を得ている。一人ひとりの能力に応じた役割を担ってもらい、準備や後片付けなども職員と一緒にすることで、生きがいを感じてもらえる様に取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックをおこない、一日の水分量を把握している。水分量の確保できない方には、声をかけ飲んでいただくようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の見守りにより、確実に歯磨きを行なう。又食事前には口腔体操を行ない、嚥下障害を防ぐように努めている。2/wは義歯の消毒をする。		

事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、できるだけ布パンツ使用で過ごせるように支援している。状態に応じてリハパン・パット類も利用。	排泄チェック表を元に、声掛けや誘導を行い、ほとんどの利用者が布パンツで過ごしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会を行ない、起床時牛乳を飲む・水分を多く摂る・消化の良い食べ物を多くとる・体操をする等、予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望をたずねて、入浴を実施している。その他には4/w以上入浴を実施し、清潔保持に努めている。	入浴は基本的に隔日で行っている。嫌がる方にも声かけを工夫し、楽しんで入浴できるよう支援している。夏季の入浴日でない日は、希望に応じてシャワー浴を実施し、清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾眠したり、疲れていたりすると居室にて静養していただく。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時には手渡し、確認をおこない、常に看護師・医師に相談、指示をうけるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに、毎日変化する状態にあうケアに心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度外出行事・受診・家族の方と出掛ける時はあるが、本人の希望通りではない。館外だけでも散歩できる支援を心掛けている。	出来る限り本人の意向に沿うように努めている。スーパーや買い物に行った際には本人が支払し、実感を味わえるように取り組んでいる。自由に出入り出来るように玄関は開放している。	



事業者名:「憩いの館」認知症対応型共同生活介護事業所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の中には、ご自分で持たれている方もいるが、大半は日常こづかい程度を事務所で預かってもらい、外出時に買い物を取り入れる等している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状・暑中見舞等、ご自分で書いてもらっている。電話にも対応している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じていただけるように花を飾ったり、カレンダーを飾り、生活感を感じていただくようにしている。</p>	<p>ゆったりとした空間や廊下に、写真や作品等を飾り、季節感が感じられる楽しい雰囲気となるよう工夫している。家族と一緒にいった食事風景や外出時の思い出に残るような写真も飾っている。トイレや浴室もわかりやすい様に配慮している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにソファを置いたり、窓・玄関をいつでも開けられるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族、本人と相談し、その人らしい飾り付けに心掛け、温かい雰囲気を作るように心掛けています。</p>	<p>個性に合わせて本人の作品や以前から使用していた物品などをさりげなく置いている。個室は和室であるが、本人の状況や好みに合わせて、洋室のしつらえにする工夫も行っている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の身体状況に合わせ、居室の位置や必要な目印、物の配置にも注意しながら、自立支援につなげている。</p>		